

## 【題名】 災害と税

【学校名・学年】 恵庭市立柏陽中学校三年

【氏名】 中 寄 夏 希

ここ何年かの際に起こった数々の災害。途切れることなくバラバラの地域で順番に。全く他人事ではない私自身は特別な被害をもたらした災害を経験したことはない。だが、身の周りでたくさんは災害が発生している。大雨、火山の噴火、台風。時に人の命まで奪う。その中では私は地震について注目した。二〇一一年三月十一日、主に東北地方を襲った記憶に残る大規模な被害、津波にも見舞れた、東日本大震災。たくさんの人々の命までさらっていった。東北は震災でたくさんは被害を受け復興を余儀なくされた。そんな中、政府は復興特別税を公布した。復興特別税とは東日本大震災からの復興施策に必要な財源を確保するために課せられることとなった日本の税金だ。復興に当てる財源の確保を目的として所得税・住民税・法人税に上乗せするという形で徴収される。税の用途は被災地に限定しており、政府はこれらの増税で十、五兆円を捻出する予定のようだ。私は税金は消費税や酒税など種類が少ないものだと思っていたが、税金というものは世界の色々な国で色々な種類があると知った。例えば自動車の所有者に対して課せられる自動車税や輸入貨物に対して課せられる関税など数え出したらきりが無い。復興特別税も復興特別所得税と復興特別法人税に分けられている。そして復興特別法人税は廃止されるが、復興特別所得税これからも納付する必要がある。東日本大震災の復興のための税金となっている復興特別税。東北の被害の復興はまだまだと感じている。仮設住宅になお三万五千人の方々。帰還困難区域もある。実際復興が遅れているようだ。あまり税金が役に立っていないのではないかと思う部分もある。だが税金は被害の復興時などの時にこそ必要なものだ改めて感じた。復興特別税が色々なところで役に立っていたら良いと思う。日本はたくさんは災害に見舞われており自然の起こす行動は予知ができない。時には国、さらに世界へ影響を及ぼすときもある。そんな時、目をそらさずに向き合うことで復興のために税金が使われるのではないだろうか。私はまだたくさんは税金は納めていない。だがこれから先、大人になるにつれ税金に関わることが増えていく。いつどこで起こるか分からない災害だってこの先何度も起こると思う。そんな時、復興特別税のような税金が日本全体から集められ使われて人々の役に立ったらと思うと個人個人の負担は大きくなってしまいが納めたいと思う。そしてあまり復興が進まなくなっても税金を納めることで少しずつまた進んでいくのかもしれない。ただお金を納めるのではなく、国が国民を救いたいと願ったからこそ復興特別税も生まれたのかもしれない。被災された人々の泣き顔を笑顔に変えるために税金は必要ではないのだろうか。